

観光開発振興について



問

わが町の活性化を図るためには、農業をはじめ商工業の発展、特に観光開発に重きを置いた産業振興が急務である。

それには、幕別町の自然や文化財など眠っている観光資源を発掘し、光をあて、有効に活用するなど、時代のニーズを把握した新たな対応が必要と考える。

パークゴルフはいまや国民的スポーツとして内外に普及したが、幕別町の観光知名度は今一つというのが実態である。

例えば、南幕別から忠類方面の一大農村自然景勝地や西幕別の日高山脈を眺望する丘陵景観地、新田牧場や晩成社の水田開発の歴史的遺産、忠類のナウマン象発掘遺跡や丸山展望台などの資源利用。

また、考古館及びふるさと館の老朽化と利用度の減少に対応するための発展的統合とそれに伴う産業生活

歴史館（仮称）の新設及びその観光活用などが考えられる。

こうした施設の運営や景観地訪問、歴史探訪、交流イベントなどは効率やサービスマン材開発等、民間人観光ガイドを養成しその活用を進める。

同時に滞在型・体験型に移行するなど、行政・町民挙げて手腕を発揮し、人々をわが町に呼び込むべである。

次の3点について町長の考えをお伺いする。

- ①考古館・ふるさと館の発展的統合。
- ②ボランティアによる民間ガイドの養成。
- ③見る観光から滞在・体験型観光へ。

町長

①蝦夷文化考古館は、アイヌ民族の生活を知る上での貴重な資料を展示し、昭和41年に寄贈された

施設であり、ふるさと館は昭和54年に設置し、開拓当時から資料を展示し、幕別町の歴史を学ぶことのできる施設であり、両施設を観光パンフに掲載するなどPRを図っているが、両施設を統合し宿泊施設を加えた新たな施設として設置することは大変難しい。

②全国的には、アウトドア関係の「山岳」「カヌー」「ラフティング」「自然」などそれぞれの分野で高い専門技術を身に付けた資格を取得している認定ガイドや、各団体や市町村が認定している観光ボランティアガイドがある。

観光ボランティアについても史跡等の案内や、インフォメーションセンターでの案内業務、春の山菜取りや秋の紅葉を楽しむなどの体験型のガイドなど幅広く行われ、運営主体もNPO法人から団体、個人などいろいろな形態で行われている状況である。

本町としてもその必要性や活用方法も含め、観光物産協会とも協議し調査研究をしたい。

③本町における、体験型観光として、イチゴ狩りや農作物の収穫・搾乳等ができる体験農場、地場の農畜産物を材料にして食品加工体験ができる味覚工房等があり、本町の基幹産業である農業の体験、地場産品を活用し、地域の歴史、生活文化、風土が伝えられる地域づくり、環境づくりを進めていかなければならない。

昨年策定した、農村滞在型余暇活動機能整備計画に基づき、グリーンツーリズムに積極的に取り組む地元農業者の研究・実践を支援

し、地域産業と連携した体験型産業観光の振興に取り組みたい。

忠類地域においては、道の駅「忠類」エリア内に、温泉施設、ナウマン象記念館、物産センター、ナウマン公園、パークゴルフ場、キャンプ場などの滞在・体験施設が集約され、さらに内容を充実させるため物産センターを移転新設するなど、自然・文化・人々との交流をいかした滞在・体験型観光の充実を図ってきたい。



ナウマン象記念館